

定期整備の期間を短縮、発電設備の安定操業へ貢献

君津共同火力株式会社 君津共同発電所向けに缶水循環ポンプの予備機を受注

君津共同火力株式会社の発電設備は、日本製鉄株式会社の東日本製鉄所君津地区で発生する副生ガスを主燃料とし、補助燃料に石炭などを使用して発電を行っています。発電された電力は、東日本製鉄所君津地区と東京電力エナジーパートナー株式会社に供給されています。

今回予備機ポンプを納入する3号および4号発電設備は、高炉ガス、コークス炉ガス、石炭、低硫黄重油を燃料として汽力発電を行っており、出力はそれぞれ350,000kWという大型設備になります。

この度、本発電設備における定期整備の期間を短縮し、稼働率を向上させたいというお客様の要望に応えるため、予備機ポンプを保有いただくことを提案しました。

また、予備機ポンプの保有により、緊急時の復旧から再稼働までの時間を大幅に短縮できるという安定操業のメリットもご理解いただき、この度の受注に至りました。現在、2023年9月の納入に向けて、本ポンプの設計製作を進めています。

今後も高性能、高品質のポンプを提供するだけでなく、予備機の保有といった新しいソリューションを提案することで、お客様のより安心・安全かつ安定した運用管理へ貢献していきます。

ポンプ名称	缶水循環ポンプ
口径・形式	HLAV350-465/1C
台数	2台
原動機容量	280 kW